

令和7年度第4回千葉県県民活動推進懇談会 開催結果概要

1 日 時

令和8年3月18日（水） 午前9時30分～11時

2 場 所

オンライン

3 出席者

鎌田委員、関谷委員、牧野委員、山本委員、石毛委員、中嶋委員、橋爪委員、根本委員

※以上8名

事務局6名（部長、課長、担当副課長、県民活動推進班長、担当2名）

4 議事の概要

議事（1）「千葉県県民活動推進計画（令和8～12年度）」の計画最終案について

○鎌田座長

本日は今年度最終回ということで、これまで御検討いただいた次期「推進計画」の最終案を、皆様に御確認・御了承いただくことがメインとなります。なお、本懇談会の開催結果概要については、事務局で取りまとめた後、皆様に御確認いただいた上で、これまでと同様に千葉県のホームページに掲載いたします。それでは早速、議事に入ります。「千葉県県民活動推進計画（令和8～12年度）」の最終案について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

計画の最終案について御説明します。1月9日に実施した第3回懇談会での御意見や、パブリックコメントの結果を踏まえ、原案を修正いたしました。修正箇所には黄色マーカーを引いています。資料2を御覧ください。まず、「県民活動に関心がある人の割合」についてですが、前回、「『市民活動団体の活動やボランティア活動への関心の割合』について、従来、関心が低いと言われていた若い世代において上昇傾向がみられることから、この点を計画に記載してほしい。」との御意見を反映し、今年度の調査結果では、一部の若い世代において前年度の数値を上回る状況も見られたことから、計画の20ページの「県民活動に関心がある人の割合は、若者や働き盛りの世代（20代～50代）で低い傾向にある」と記載されている中に、「一方、令和7年度は、こうした世代のうち、男性の20代から40代、女性の30代では前年度の数値を上回るなどの状況も見られます。」という文言を追加しました。

次に、「若い世代の方の割合が前年度より上がったのは、ちばボランティアナビの成果もあると思うが、その点を計画に記載できないか。」との御意見がありました。これにつきましては、御意見のとおり、ちばボランティアナビの登録者は10代や20代の若い世代が過半数を占めていることから、計画資料編において、サイトの紹介と併せて、若者の利用者が多いことなどを記載したいと考えております。

次に、3「市町村の中間支援機能の強化」ですが、前回、「県域ではなく地域等を絞った上で情報交流や情報交換を行う開かれた場を県にコーディネートしてほしい」との御意見や、「市町村単位での中間支援の動きが停滞しているため、個々の市町村での中間支援を充実させるために、県には学びの場やスキル提供を行ってほしい」との御意見がありました。これにつきましては、県としましても、市町村支援は重要と考えておりますので、「市民活動支援組織ネットワーク」による情報交換や研修の実施、県内各地域での「協働のまちづくりセミナー」や市町村へのアドバイザー派遣事業に取り組んでいるほか、今年度からは希望する市町村に、副業人材である、県民活動推進コーディネーターを派遣し、個々のニーズに応じた支援も行っており、今後もこうした取組を通じて市町村との情報交流、学びの場やスキルの提供などを進めてまいります。

次に、4「共創の意義」ですが、「共創に関わることによって、既存のNPOや自治会などの活動団体も良い意味で変わることができる」といったニュアンスを少し加えた方がよいのではないかと御意見がありました。これにつきましては、計画本文の40ページ、「施策の方向性3 多様な主体による連携・協働・共創の促進」の中で、連携・協働・共創の取組を契機として、他の主体の経験や知識から学び自身のスキルを磨くことができるとともに、異なる背景や価値観を持つ人々との関わりを通じて、多様な考え方や新たな気付きを得ることができる旨を記載したほか、資料編において、共創などの取組を通じて活動団体自体が成長した事例を掲載することで、共創推進の意義や効果を広く周知していくこととしています。

続きまして、パブリックコメントで寄せられた意見とその対応について、御説明いたします。資料3を御覧ください。パブリックコメントには、1件の御意見をいただきました。千葉県全体で道路破損箇所報告アプリ「MyCityReport」の活用を促進し、気軽な市民活動として道路環境の改善に取り組むことで、より良い道路環境の整備を進めてほしい、といった御意見をいただきました。

これにつきましては、県では道路緊急ダイヤル（#9910）やLINEによる通報受付など、道路に関する相談窓口を設置していること、また、身近なことでできる“ちょっとした”ボランティア活動「#ちよいボラ」の推進などにより、県民の皆様による自発的な社会貢献活動である県民活動の裾野の拡大

を図ってまいりたいと思います。

続きまして、資料編の構成（案）につきまして御説明させていただきます。資料4を御覧ください。資料編ですが、これまで皆様から提供いただいた事例や御意見、また過去の計画なども参考にしながら課内で検討いたしまして、資料4のとおり作成することを考えております。まだ構成途中のため、流動的な部分もありますので、現段階の案として御理解いただければと思います。

前回から加わったものを朱書きにしております。まず、「1 社会貢献活動をめぐる状況」「(1) ボランティアの状況」の中で、「ならしのプロボノ」を追加させていただきましたが、これは、ホームページのリニューアルやSNSの活用など、運営上の困りごとを持つ団体と、様々なスキルや経験をもつ社会人ボランティアとをつなぐ習志野市の取組で、次期計画ではライフスタイルやライフステージに応じた県民活動の参加を促すため、プロボノの推進を掲げていることから、本事業を掲載したいと考えております。

また、同じく「ボランティアの状況」の参考事例として、前回の懇談会でも御意見をいただきましたとおり、「ちばボランティアナビ」が10代から20代の登録者が半数以上であり、若者の登録者が増えていることをここで記載したいと考えております。

次に、「(2) NPO法人・認定NPO法人の状況」の中で、近年、設立に係る手続きが容易なことなどを背景に一般社団法人が増えていることや、制度がスタートして3年程度経過した労働者協働組合の状況など、県民活動を担う様々な市民活動団体の現状について記載したいと考えております。

次に、「(3) 民が民を支える取組の潮流」の【参考事例】では、市を良くしたいという思いで活動する市民活動団体と市民をつなぐ市原市独自のポイント制度「いちはら推し活制度」と、ちばのWA地域づくり基金が実施する資金調達サポートプログラムである「事業指定助成プログラム」を掲載したいと考えております。

次に、「(4) 連携・協働・共創の取組」につきましては、「連携・協働」の取組に加え、新たに「共創」の取組事例を紹介したいと考えており、まず、「連携・協働」では、本懇談会でも、自治会にスポットライトが当たる取組があれば周知していただきたいとの御意見をいただきましたが、NPO、地縁団体、大学等、各団体の特性を活かして連携・協働しており、今年度のちばコラボ大賞を受賞された、「てらちば地域教育・世代間交流プロジェクト」などを掲載したいと考えております。

「共創」の事例としては、茂原七夕まつりのゴミ問題解決に向け、学校・商工団体・企業などが連携して、ペットボトルキャップを再生利用したリユースできるスプーンを企画・製造・販売し、令和6年度にちばコラボ大賞を受賞された、「未来を変えるキャップーン」など、地域の課題解決につな

がる事例を掲載するとともに、四街道市立図書館が中心となり、地域の多様な団体や企業・大学等と連携し、図書館を「本を借りる場所」から世代や立場を越えて人がつながる共創の場へと再構築することで、地域の課題解決と地域の資源の再発掘を目指す取組で、今年度のちばコラボ大賞を受賞された、「みんなの図書館～利用者から創り手へ、共に創る図書館～」の事例、また、NPO 法人や企業、行政などが連携し、地元の発酵文化に着目し、全国発酵食品サミットの開催や酵素風呂の体験、手作り発酵コスメのワークショップなど、発酵を食の分野に留まらずに、健康・美容、環境・エネルギーなど、これまで活用されていなかった資源の発掘や多面的で新たなサービスの創出につなげた事例などについて、掲載したいと考えております。

また、「2 各種調査結果」の中で、大学生からの意見聴取結果を掲載したいと考えております。

続きまして、計画の関連事業について御説明させていただきます。資料5を御覧ください。関連事業ですが、庁内各課に照会を行い、当課の取組と併せて、資料5のとおり、作成いたしました。今回は各事業について詳細な説明はいたしませんですが、例えば、県内におけるフードバンクのネットワーク構築を支援するとともに、県内全域の中核となるフードバンク団体への補助を行う「フードバンク活動支援事業」や、県内各圏域の拠点となるフードバンク団体への補助事業である地域におけるこどもに対して食事や交流の場を提供するなど、こども食堂の自立的な活動を支援する「こども食堂サポートセンター事業」、行政、社会福祉協議会、災害中間支援組織等の連携強化のため、「地域ミーティング」などを開催し、被災者支援活動の円滑化とネットワーク強化を図る「被災者支援体制整備事業」、各地域振興事務所が、地域の課題や特性を踏まえ、管内の市町村、関係団体などと連携して地域振興施策を検討し、将来的な事業展開を見据えて必要となる事業を実施する、「地域づくり推進事業」などの事業が追加となっております。これまでと同様、庁内で連携して県民活動の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆さまには引き続き、御協力をいただければと思います。

なお、各事業の詳細につきましては、来年度の第1回目の懇談会で御説明する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、今年度を実施しました、千葉県NPO法人実態調査の結果について、既に計画の中に一部抜粋して掲載しておりますが、今回全体版を資料6で添付いたしましたので、御覧いただき、御意見等あれば御発言いただければと思います。

以上、長くなりましたが、資料1から6の御説明を終わらせていただきます

○鎌田座長

ありがとうございました。それでは質疑に入ります。本日は関谷委員のお時間に制限があるとのこ

とですので、まずは計画案について御検討ください。牧野委員、いかがでしょうか。

○牧野委員

前回意見を出した若年層の数字の伸びを取り上げていただき、ありがとうございます。ちばボランティアナビの登録者詳細の記載についても承知いたしました。

○山本委員

事例が豊富に掲載されることで、活動の実感が湧く良い内容になると思います。資料編の完成も楽しみにしております。

○牧野委員

追加の提案ですが、資料編に「環境保全」や「里山保全」の事例も検討いただけないでしょうか。例えば富里市の「おしどりの里を育む会」は、子供たちの自然体験やグリーンインフラの活動を継続し「みどりの愛護に優れた活動」として、国土交通大臣から感謝状を授与されていて、良い事例になると思います。

○鎌田座長

はい、ありがとうございます。資料編については、先日事務局と打ち合わせをした際に伺ったのですが、あと1ヶ月くらいは（内容追加の）余裕がありそうです。牧野委員から御提案いただいた部分も含めて検討できればと思います。私自身も、前回の「ちばコラボ大賞」の際に富里の里山保全に関する良い事例がたくさん挙げられていたのを見て、富里という地域全体でそのような動きがあるのは非常に良いことだと感じていましたし、このアクションは面白いなと思っていました。

事務局から、日程的なことについて何か補足があればお願いいたします。特に、資料編の作成スケジュールについて、いつ頃までなら具体的な追加提案を受け入れられるかといった点について、お話しいただけますでしょうか。

○事務局

4月中であれば事例の追加は可能です。牧野委員から御提案いただいた富里市の「おしどりの里をはぐくむ会」につきましては、連携・協働の事例として掲載できるか、内部で検討させていただきます。

○山本委員

事例のバランスとして、新しい動きだけでなく、20年、30年と長く続いている活動もバランスよく載せられると良いと感じました。

○石毛委員

計画 20 ページの若者世代に対する表現について、前回の意見を受けてすぐに対応していただき、本当にありがとうございます。

やはりこれからの時代、20 代から 40 代の方々が積極的に県民活動に参加できる状況を作っていかなければならないと、私自身も責任を感じております。

誰もが難しく考えることなく、自分たちが起こしている行動そのものが県民活動の一つなのだと認識し、参加できる。そのような活動を我々も応援していく必要があると感じています。

迅速に意見を反映していただいたことに感謝申し上げます。計画の内容についても、これで賛成いたします。

○中嶋委員

具体的な書き込みが増えて、より分かりやすくなりました。事例については、山武市で行われている「エコノミックガーデニング」のように、産官民が関わって三位一体で地域活性化に取り組む活動も参考になるかと思います。

○橋爪委員

全体的に県民が身近に感じられるきっかけとなる計画になっているという印象を持ちました。

資料編への要望は特にありません。

○根本委員

大変分かりやすい良い計画になったと思います。「未来を変えるキャプーン」の事例掲載もありがとうございます。完成を楽しみにしています。

○関谷委員

全体的には、これまで色々申し上げてはきましたが、非常に良い形でまとまっていると思います。内容については、このまま進めていただいて差し支えありません。

今回、「共創」という言葉を計画に盛り込みましたが、これは非常に良いタイミングだったと感じています。世の中の的にも、単なる連携を超えた「新たな価値創造」や「各団体へのフィードバック」といった側面が強調されるようになってきています。県として計画に全面的に共創を打ち出し、推進していくことは、現在の現場感覚にも非常にマッチしており、素晴らしいチャレンジだと思います。

資料編（資料 4）の事例についてですが、分類の仕方は基本的にこれで良いと思います。ただ、一点付け加えるならば、「地縁団体（自治会等）」が関わる事例をさらに充実させてほしいという印象

を持っています。

例えば、私の知る市原市の事例では、小学校区単位の地縁団体が横に連携し、共創の理念を持って活動しています。特に最近、国土交通省の賞を受賞した「首都圏地域」や「青葉台」の取組などは、既存の地縁団体が多世代参加や地域資源の活用を積極的に行っている非常に活発な例です。

この計画には地縁団体の活性化も盛り込まれていますので、こうした事例が加わることで、他の自治会や団体にとっても大きなヒントになり、より幅の広い事例紹介になるはずです。ぜひ検討してみてください。

最後に、市町村の「中間支援機能の強化」についてです。現場の感覚からすると、市町村が単独で行政の枠を超えて広域連携を呼びかけるのは、立場上なかなか難しいのが実情です。

だからこそ、県がリードして市町村の枠組みを超えて学び、議論できる「出会いの場」を強化していただきたい。近隣市町村が同じテーマでアイデアを出し合えるような、合同の学びの場を県が作ることで、「協働」からさらに一歩進んだ「共創」を作り出すきっかけになると考えています。今後の運用のなかで、ぜひ検討して行ってください。

○鎌田座長

関谷委員の指摘について、事務局から補足があればお願いします。

○事務局

広域連携については、今年度から配置した「県民活動推進コーディネーター」の影山氏を通じて、市町村の主体的な動きを県として支援してまいります。

○鎌田座長

資料5・6については御意見等いかがでしょうか。

○山本委員

前回の会議でもお話が出たと思いますが、NPO法人の数が減少していたり、以前ほど増えていなかったりという現状があります。私たち自身も、これからNPO法人としてどういうふう運営していったらいいのか、「NPOらしさ」とは今一度何なのだろうか、といった議論を（内部でも）しているところです。

ですので、今回の調査結果そのものというよりは、今後の5年間という計画期間の中で、県内のNPOの状況がどう変化していくのかを注視したいと考えています。特に、新しく「共創」という言葉を使っていく中で、NPO法人としてのあり方をしっかり考えていければと思っています。

福祉の分野でも、これまでNPOとして事業を運営してきたところが法人格自体を変更し、規模の大

きいところは社会福祉法人に移行するなど、周囲でも法人形態が変わる動きが出てきています。また、私たちの団体もそうですが、多くの団体が世代交代の時期を迎えています。設立メンバーからの引き継ぎなどは、これまでも課題として言われてきましたが、この5年間でいよいよ現実的な問題となってくるはずです。

そうした中で、他の法人の状況についても学びたいですし、情報交換もしていきたいです。分野によってもさまざまな違いや、協力していける可能性があると思うので、NPO法人としての変化をしっかりと捉えていける5年間にしたいと考えています

○牧野委員

前回の会議でも申し上げましたが、NPO法人の一番の特徴であり良さは、何よりも情報公開にあります。資産、人事、事業内容にいたるまで、一般の方々に運営状況が詳しく公開されており、内閣府のポータルサイトを見れば、活動が滞っている団体も、しっかりと取り組んでいる団体も一目で分かります。

そのための手続きが非常に煩雑で面倒だという側面もあり、NPO法人側でも情報公開を徹底できていないケースはもちろんあります。しかし本来、この仕組みは、その特徴を活かして寄付を募ったり、人材を募集したり、人的な支援を受けたりするために備わっているものです。現状では、この仕組みを十分に活用しきれていない面があるため、私たち中間支援団体としては、団体が信頼を得て力を発揮できるよう、さらに支援を強化していかなければならないと考えています。

また、「連携・協働・共創」を進める上でも、中間支援の役割は非常に重要です。行政が持つ支援機能と、私たち民間がNPO法人として担っている支援機能には、それぞれ異なる特徴があります。これからの時代に合わせた支援のあり方を模索していく必要があると感じています。

現在、NPO法人の数はなかなか増えず、解散するケースも多いのが実情です。山本委員がおっしゃるように、他の法人格へ移行する事例も多くなると思いますが、大切なのは法人格の有無にとらわれないことです。地域づくりや県民活動、NPO活動が地域の中にしっかりと広がり、その裾野が拡大していくことこそが、本当の意味での「暮らしやすさ」に繋がると考えています。悩みは尽きませんが、そのような方向を目指して取り組んでいければと思います。ありがとうございました。

○事務局

資料編の構成について1点だけ、委員の皆様にご意見を伺いたいことがございます。資料4（資料編の構成案）の「連携・協働・共創の取組」の項目に関連して、県内の「市民活動支援センター」による連携・協働の事例を掲載したいと考えております。もし皆様のなかで、何か面白い取組を御存じ

でしたら、ぜひ情報をお寄せいただけないでしょうか。

○鎌田座長

回答は今日でなくても良いですか。

○事務局

4月中くらいまでに御回答いただければ非常にありがたいです。

議事（2）その他

○事務局

それでは私から「令和8年度事業及び予算の概要（案）」について御説明いたします。

資料7を御覧ください。

計画の3本の柱に沿って、施策の方向性を記載しております。令和7年度当初予算から令和8年度当初予算で主に増減があるものの概要としましては、まず、「県民活動への理解や参加の促進・定着」の中で、「ちばボランティアナビ再構築事業」1,401万6千円で、これは、「ちばボランティアナビ」の利用者の更なる拡大に向け、セキュリティ対策の強化や利用者の利便性向上を図るため、システムの再構築を行うこととしています。

また、「多様な主体による連携・協働・共創の促進」では、課題を抱える地域を対象に、有識者による講演や優良事例の発表などを実施している「協働のまちづくりセミナー」において、新たに「共創」の周知や促進をテーマとしたセミナーを開催することとし、会場費などを増額しているほか、一番下の「副業人材の活用」として、今年度から様々な取組に助言をいただいている「県民活動推進コーディネーター」の人件費等を、今年度は補正予算において措置しておりましたものを、令和8年度当初予算にて計上したものです。私からの説明は以上になります。

○鎌田座長

資料7について御要望ありますでしょうか。特に無いようでしたら最後に、4年間の任期を振り返って一言ずつ感想をお願いします。

○牧野委員

今年度は次期計画の策定という節目でしたが、この4年間で県民活動や市民活動を取り巻く環境は随分と変化しました。特にコロナ禍を経て、人との繋がり方が大きく変わり、それに伴って地域の課題も、日常生活の細かな「暮らしにくさ」など、より多様な課題が増えてきていると感じます。そうした課題に真摯に向き合い、活動に関わる市民の裾野を広げていくことがますます重要であると、こ

の委員会を通じて改めて実感いたしました。

また、今回のように会議をオンラインで実施できるようになったことは素晴らしい進歩だと思います。今後は、ウェブを有効に活用する一方で、直接人手をかけるべき部分にはしっかりと時間と労力もかける。そのような、デジタルの利便性と対面の丁寧さを両立させた活動を大切にしていきたいと考えています。本当に変化の大きい4年間だったと思います。ありがとうございました。

○山本委員

4年間、ありがとうございました。私たちの団体では、現場で「ちばボランティアナビ」を活用できたことが非常に大きな成果でした。会議の中での報告もそうですが、何より現場の実感として、その効果を強く感じております。

ボランティアに対する若い世代の受け止め方も、この4年間で大きく変わったと感じています。実は今日もこの後、ボランティア希望の方が来られる予定なのですが、最近では面接もオンラインで行っています。事前にわざわざ足を運ばなくても、オンラインでやり取りをすることでスムーズに活動に参加できるようになりました。また、中学校、高校、大学などの授業でもボランティアが取り上げられる機会が増えており、ボランティアというものが本当に身近な存在になったのだと実感した4年間でした。

今回、委員として参加させていただき、大変勉強になりました。普段、船橋市を拠点に活動していると、どうしても県内全体の状況が見えにくい部分があります。そのため、今回御紹介いただいた様々な事例や、委員の皆様のお話から学ぶことが非常に多かったです。

特に地縁団体のあり方については、関谷先生のお話から、私たちの活動が周りの地縁団体と今後どのように繋がっていけるかという大きなヒントをいただきました。本当にありがとうございました。

○石毛委員

私は約2年前、前任者の後を引き継いで、皆様とともにこの会議に出席させていただくようになりました。社会福祉協議会の仕事に携わって11年になりますが、このように多様な分野の方々と直接お話しをさせていただくのは、私にとって初めての経験でした。普段は社協の関係者との連携が中心で、なかなかこうした場に参加する機会がありませんでしたが、仲間に加えていただき、一つ二つと大変勉強させていただいたというのが率直な実感です。

また、牧野委員におかれましては、日頃から八街市の協働に対して多大なる御協力と御支援をいただき、感謝申し上げます。関谷教授におかれましても、明後日に八街市で御講演いただく機会がござ

います。多くの市民の方に、極端に言えば「初めて聞くような内容だ」と驚かれるような新鮮なお話を、ぜひ集まった方々に聞いていただければと思っております。

今回の経験を通じ、私自身も日頃から地域に根ざして取り組んでいる社会福祉活動にさらに力を入れ、先ほどお話もありましたような「県民活動」として成り立つ団体を、自分でも心がけて探していきたいと考えております。微力ながらお手伝いをさせていただきます。ありがとうございました。

○中嶋委員

4年間、ありがとうございました。私は委員を4年間務めさせていただきましたが、コロナ禍からコロナ明け、そして現在に至るまでの大きな変動の中で、各団体の皆様とお会いしてお話を伺えたこと、また様々な活動やイベントを通じて知見を得られたことは、私にとって大きな気づきや学びとなり、大変貴重な経験となりました。

この経験を自分の中に活かし、これからの地域貢献や社会活動に繋げていきたいと考えております。本当にありがとうございました。

○橋爪委員

私も前任者から引き継ぎまして、令和6年から2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

柏市では現在、地縁団体（自治会等）の課題対応が急務となっており、これまで市民活動団体やNPOの活動について詳しく知る機会がなかなか持てずにいました。しかし、この推進計画の策定を通じて、県内で実に様々な活動が展開されていることが本当によく分かり、大変勉強になりました。

前回の会議でも少し御説明いたしましたが、柏市では今年度の4月から部の再編が行われます。地縁団体を支援する「地域コミュニティ課」が新たに設置され、おそらく私はそちらの課に異動することになります。

一方で、主にNPOや市民活動団体を担当する課として「協働交流課」も設置されます。4月以降、どちらかの課を通じてまた何らかの形でお世話になるかと思えます。部が2つの課に分かれることとなりますが、その点御承知おきいただければ幸いです。

2年間、本当にありがとうございました。

○根本委員

私も前任者から引き継ぎ、今年度の1年間という期間ではありましたが、本会議に出席させていただきました。ありがとうございました。

全ての会議に出席できたわけではなく、皆様に御迷惑をおかけした場面も多々あったかと思いま

す。しかし、こうした機会を通じて様々な活動や知見を知ることができ、大変勉強になりました。

1年間、本当にありがとうございました。

○関谷委員

4年間、いろいろとお世話になりました。この懇談会の場で計画策定に携わり、様々なお話を伺う中で、千葉県内各地の活動が本当に地道に、そして一生懸命かつ精力的に行われている様子を改めて知ることができました。また、そうした活動をより活発にするための計画づくりやその運用が非常に重要なポイントになると感じ、県という大きな視点から市民活動を捉える意義を改めて実感した次第です。

先ほど、委員の皆様からお話がありました通り、市民活動を取り巻く社会状況は大きく変化しています。課題を抱える当事者の方々や、それを支援する活動団体の皆様が置かれている状況は、ある側面では非常に厳しさを増しています。支援のあり方も多様化していますが、ともすれば「考え方」よりも「スキル」が先行してしまっているのではないかと感じる部分もあります。もちろん、スキルが道を切り拓く面もありますが、私たちは今、何が問われ、何が必要とされているのかを今一度考えなければなりません。その上で、様々なスキルを適切に組み合わせることが大切なのではないかと思います。環境が変化する中で、各方面が手を携えながら、本当に必要な支援を共に作り出していく動きが、今まさに問われているのだと実感しています。

私はコミュニティを専門としておりますので、こうした変化の中でいかにコミュニティを再構築していけるかを日々考えています。大学で教鞭を執る立場としても、再構築の難しさを正直実感するところではありますが、それでもコミュニティがなければ社会は回っていきません。その再構築に向けて、市民活動が持つ意義をコミュニティとの関連の中でさらに深掘りし、知恵を出していければと考えております。

新たな計画のもとで、これから様々な動きが進んでいくことと思いますが、私も微力ながら貢献してまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○事務局

委員の皆様、4年間本当にありがとうございました。私自身も昨年度に県民生活課長として着任してからこの2年間、皆様の御意見を伺いながら県民活動の推進に取り組んでまいりました。

先ほど関谷委員からもお話があった通り、昨今の県民活動には大きな変化が生じていると感じています。特に、私どもが運営している「ちばボランティアナビ」についてですが、昨年度の着任時には約1,100名程度だった個人登録者数が、昨日時点で4,467名と、この2年で4倍にまで増加しまし

た。これほどまでに県民活動やボランティア活動に関心を持つ方が増えてきたのだと、実感を深めた2年間でもございました。

次期計画においては、新たな取組として「ライフステージに応じた参加機会の提供」や、今回皆様に御議論いただいた「共創」といった視点を盛り込むことができました。これらの内容を反映した新計画のもと、来年度からの5年間、県民活動のさらなる推進にしっかりと取り組んでまいります。

また、「ちばコラボ大賞」15周年を迎えることができました。鎌田座長の御尽力もあり、今回は特別賞を2件設けることもできております。今後の運営においても、新たに定義した「共創」の考え方を踏まえて進めてまいりたいと考えております。

引き続き皆様のお知恵を拝借できれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。4年間、本当にありがとうございました。

○鎌田座長

私自身も、この4年間を振り返りますと、私事なのですが、35年間勤めてまいりました千葉工業大学での現役生活に、一区切りをつけようと考えております。

先週の土曜日には、教え子であるOB・OGを中心に200名以上が集まって祝賀会を開いてくれました。大変賑やかな時間を過ごしました。ここに出席されている委員の中にも、友人として駆けつけてくださった方がいらっしゃいますが、改めてこの35年を振り返ってみると、実に感慨深いものがあります。

少し長くなりますが、私がこれまで卒業論文を指導した学生は全部で452名、修士課程が55名、そして博士課程が10名にのぼります。彼らと一緒に歩んできたわけですが、上の世代を見るともう還暦を迎えています。一方で現役の世代は、大学生ですから22歳。一番若い1年生は18歳です。18歳から還暦までの教え子がいて、私自身は今70歳を少し手前。この広がりこそが、まさに「ライフステージの塊」なのだということに、今回初めて気がつきました。

私が今所属しているのは創造工学部というところです。先ほど「化学反応を起こす」や「発酵していく」といったお話がありましたが、まさに「何かを形作り、出来上がっていくこと」を追求する学問分野にあります。そう考えると、今回の推進計画のキーワードである「ライフステージ」と「共創」の塊のような環境に、私は35年間身を置いていたのだと改めて幸せを感じました。

今回の推進計画は、いわば私自身の人生の推進計画でもあると思っております。もちろん、これまでの活動も皆様の「協働」と御協力があってこそのものであります。これからも公私共々お付き合いいただければ、私の残りの人生もさらに楽しめるのではないかと考えております。

私の研究室の500人近いネットワークをインターネットでうまくつなぎ、みんなでこれからは「研究・教育」という枠組みから「社会貢献」へとシフトしてやっていこう、と先日の集まりでも呼びかけたところです。

どうぞ、今後とも引き続きよろしく願いいたします。皆様、4年間本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます

○事務局

鎌田座長をはじめ、委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発に御議論いただくとともに、貴重な御意見を賜り誠にありがとうございました。

本計画（次期推進計画）につきましては、今後、庁内の手続きを経て、年度内に公表を予定しております。

委員の皆様には、御多忙の中、千葉県県民活動推進懇談会の委員として4年間の長きにわたり多大なる御協力をいただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

以上をもちまして、令和7年度第4回千葉県県民活動推進懇談会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。